

令和7年度 授業改善プラン

| | | | |
|-----|----------|-----|------------|
| 地域名 | 東葛飾教育事務所 | 学校名 | 流山市立常盤松中学校 |
|-----|----------|-----|------------|

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 数学の調査結果では、正答率において全領域で全国の平均を上回っていた。
- 数学への関心等では、全国平均より下回っていた。
- 学習習慣、自己有用感では、全国平均より下回っていた。
⇒数学の知識や技能は身につけているが、関心や意欲が低いという状況であった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 定期的に理解度や到達度を図ることにより、生徒の達成感を高め、生徒のつまづきを知り授業へ還元することで、生徒の関心や意欲を高める指導につなげる。
- 振り返りや生徒が自己の見通しをたてることで、自己有用感を高めることにつなげる。

3. 具体的な実践

- 週に1回の数学研究部会の実施による教員間の連携の強化
- 少人数指導とチームティーチングの実施
- 職員会議や校務部会での全体への研修(数学科の取り組みを全教科へつなげる)
- 單元ごとのテストの実施及びアンケートによる検証
- 週に1回程度の振り返りの記入による生徒の分析

4. 成果

- 定期的なテストや振り返りによって、生徒のつまづき等に気づき、授業や個別指導に還元することが出来た。
- 生徒が振り返りを書くことによって、主体的に学習に取り組む姿勢が増えた。
- 年度当初より70%の生徒が、数学が好きになったと回答するようになった。

◆担当指導主事から

- 数学の学習活動を通して、生徒の自己有用感の向上にせまることを研究の柱としている学校である。様々な調査を関連付けて丁寧に生徒の実態や変容を分析している。また、数学科の職員がチームとして研究に臨み、少人数指導を推進していた。生徒の自己有用感と数学への意欲等に相関がみられたため、次年度は今年度の取組を整理し、更に推進する予定である。